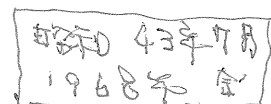


目 次

- ・理事長あいさつ…………… 1
- ・あかりの話…………… 2
- ・10周年記念事業…………… 3
- ・座談会「民間と I A I の相互
関係…………… 4
- ・理事会報告…………… 8
- ・43年度役員一覧
事業組織とメンバー…………… 9
- ・世界的な「木匠」として
活躍する中島さん…………… 11
- ・新入会員紹介…………… 13
- ・月例会報告…………… 15
- ・会員近況…………… 15



No. **34**

THE JAPAN INTERIOR DESIGNERS' ASSOCIATION

43年度理事長に豊口氏

時 代 の 変 貌

豊口克平

大変むつかしい時代に当面したようです。政治、社会、経済、思想、芸術あらゆる分野を通じて一大転換期を迎えようとしていることを、ひしひしと感ずるこの頃です。

かつての産業革命が、人間社会の構造や思想に革新的世代をもたらしたように、次代への周期に直面して現われた混沌の諸現象なのでしょう。この激動は人間社会の発展的必然性であってこれを否定し、これから逃避することは許されないものでしょう。・

私達は新しい住生活の思考方法と形式を生み出さなければならぬでしょう。私達はこれまで人間自体を、あまりにも漠然とした不可思議という概念によって取扱ってきたようです。個としての人間、集団としての人間について、厳しく科学的に究明をすることによって、今日、未来の科学技術の発展現象に人間を対応させなければならぬのではないのでしょうか。そうしたことから人間の生活像が新しく生れ、住形式が発見されるべきだと思います。

私達は異った分野の生科学者(高次な生理・心理)技術者、芸術家の協力によって貴重なデータを得られるでしょう。それらのデータは住生活の専門技術である建築家、デザイナー(インテリアに関連する)によって消化され総

合されて、具象化されるでしょう。住居(航空機、宇宙船、車輛、船舶も含めて)の問題は人間にとってより以上その重要性を増すと同時に、その総合は複雑な内容を包摂することを覚悟しなければならないでしょう。

これまで余りにも人間とその環境形成について各分野の究明がなされなかったのではないのでしょうか。インテリアデザインの(漠然とした諸要素の総合・人間の放慢な自由・建築家との無主張的協力・職能確立への自信)などについて鋭い究明と自主性の確立をしなければならぬ時がきているようです。

同じデザイナーの分野でもインテリアデザインは、もっとも不明確な社会認識のもとに続けられてきたようです。

本年は当協会の10周年にあたりますが、記念事業の一つとして計画されている(1968デザイン会議)のテーマ(変貌する市民生活と住いの秩序)もまた、これらの問題解明のカギになることでしょう。法人化、記念展、年鑑発行のほか講演会、研究会などにも会の発展を意味する具体的方策ですが、それは実際の行動によってはじめて成果を生むものです。

このような激動期に人間の住環境への新しい回答を自ら明らかにする責任を会員が本当に考え、計画し、行動することを誓いたいと思います。それは全会員の連滞参加によらなければならないし、特に住生活の未来像の解決のカギは若い人々の手に握られていることを自覚してほしいと思います。



第1回 ヤマギワ照明国際コンペ で川上信二氏入賞

山際電気株式会社が新館落成を記念して、照明器具の国際コンペを行った日本で照明の国際コンペは初めてのことであり注目をされていた。

今回、海外からも多数の応募があり、その結果が6月発表され、当会員である川上信二氏が入賞された。

あかり

の話

川 上 信 二

夕方、学校で今までガヤガヤと思いきいの事をやっていた学生が、急にひとかたまりになったと思うと、電気を消して真中のテーブルにローソクを灯す。それからクラスのディスカッションが始まる。

また、事務所で所長から打合せの招集があると、一番奥の半地下を改造した会議室に集る。そしてテーブルの上に皆の心を一つに集めるように、明りがともされる。壁ぎわの暗がりに、今作業中のモデルだけがスポットに照らされている。

冬の長い家庭では、この明りのもつ意味が生活の中に大きな支えになって生きている。

言いふるされたことだが、これが北欧の生活の一端である。

日本ではあまり知られていないが、ラッセ ユングローフと言う室内建築家はスウェーデンの室内建築家協会の会長をやっており、またストックホルムのコンストファックスコーラン（王立工芸学校）の室内および家具デザイン

科主任も兼ねて、今が最も働きざかりの人である。私はこの人の事務所で一年半ばかり、日本の電々公社にあたる役所の団地計画、インテリアデザインの仕事に参加していた。

3Mシステムを使った完全なプレハブ建築で7つ程の建物が地下で有機的に連絡されている。市の中央から離れて住宅団地で有名なファシユタ郊外に建つものだが、主にこの会長室回り、公共施設、展示場と、インテリアでも腕を振る格構の場所が数多くあった。ここで私は日本でに経験できない数多くのものを体験したが、素材をインテリアに息づかせることがいかに重要かと言うことを思い知らされた。

建築家によって造られた全体計画の有機性を人間が接触する空間として、素材を媒体にいかにか室内建築家がこれに具体性を与えるかということ、この基本的な考え方が一貫していたように思う。

例えば照明についても例外ではなく、初めに言った明りのもつ意味を人間の働く場、休む場、リクリエーションの場などに深くわけ入って考えているように思う。

光源一つにしても、透明電球による鋭い光、影の効果、フィラメントの一点光線のもつ強さを充分意識した使い

方、半透明電球の球体としての光の使い方、反射光、透過光の意識的な使い方シェードに使う素材を充分生かした形等々、人の心をひきつける照明は、やはり北欧には多い。

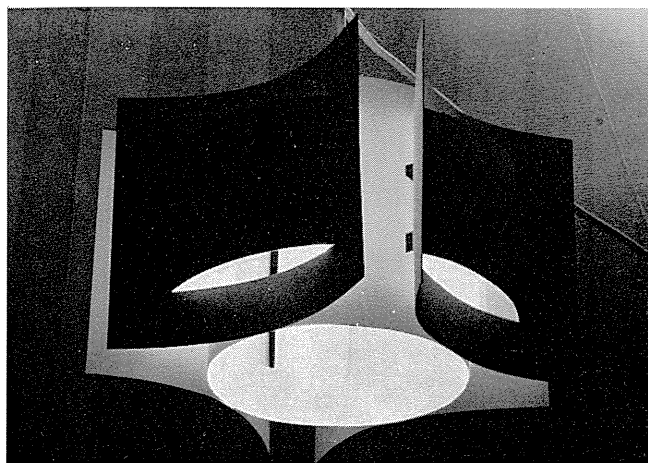
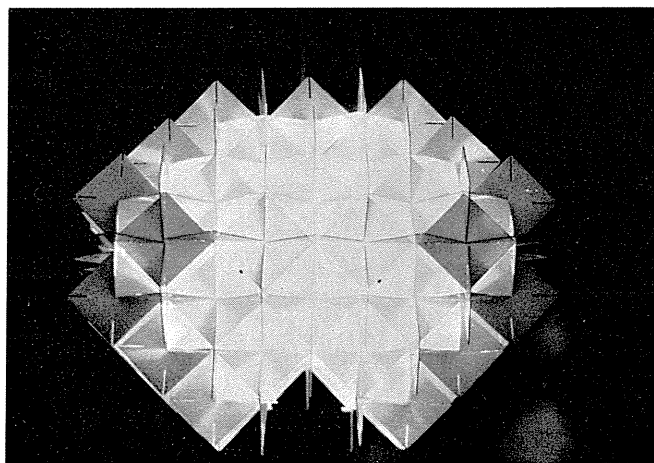
特に公共の場として、教会の照明、団地のショッピングセンターの街灯など、何時までも深く心に残る灯りは忘れることができない。

物理学を応用した照明は、当然これからも追求されなければならないし、新しい光源体もちろん創られて行くだろう。21世紀のわれわれは予想もできない新しい材料に周囲を包まれていることだろう。それを人間社会に具体化するデザインも当然生れてくるはずである。

しかし、何かここで背すじが寒くなる思いがするのは、そこには何時も有機質としての人間が存在するということである。人間疎外の影がいつもあるからである。

デザインという仕事は人間を素材がいかにか包含し、豊かにするか、ということにもなると思うが、少なくとも日本を考えて見ると、照明だけに限らずまだまだという気がする。

私達のこれからの果す役割の大きさとその難かしさを、ひしひしと考えるこの頃である。



写真右、左、とも入賞作品 デザイン・川上信二

10 周年記念 各支部事業計画

主題について、経済学者、心理学者、文明評論家、建築家、デザイナーなどの多方面の専門家によるシンポジウム形式での会議により、分化されたデザイン活動の総合の立場から論議を行なうつもりである。いずれ次号では、各パネリストも決定し、発表できると思います。（東京支部 狩野雄一記）

○大阪支部

作 品 展 に ね が う

七年前に“シカゴに渡る家見展”を開催して以来、各年度事業計画にたびたび作品展の話題が出たが、それも実現をみづして今年度を迎えた。前回の十周年記念事業についてのアンケートの結果からみても、東京、大阪の地域差、構成メンバーの相異によるものか、大阪地区では作品展への賛成が圧倒的に多かったと聞く。また昨年度の大阪支部の事業計画としてのアンケートによっても同様の結果をみたことは、大阪の会員諸兄が常々自己の作品発表に根強い希望と熱情を持たれているものと思われる。本年度総会にても十周年記念事業の一環として作品展開催を可決されたことは喜ばしい次第であり、是が非でも総意を結集してこれを成功に結びつけるべきだと思う。

作品展を開催する意義として、記念事業としての意のあることは勿論だが、会のメリットは何か……と批判されている会の存在活動を第三者によびかけると共に、会員相互の協力、研鑽により一層の連帯感を強くし、その成果の向上をはかり各人の自覚をよびおこすことにより会の運営を活潑にする糸口とすべきだと思う。サロンのムードより脱皮して現実の壁に団体として力強く進まねば公益性を云々される権威ある法人化の新組織も空念仏になりかねない。

方法として十周年事業の主題である“変貌する市民生活と住いの秩序”に即したサブテーマのもとに企画を促進することが第一であり、現実と明日との協調点を見出した作品展とすべきだと思う。各自の創りだされたデザイン今までに開拓されたものの新しいデザイン、賛助会員のために協力した新

製品など、その発表の手段は種々あると思われるが、これらが会としてのより堅実な歩みに寄与するものであり、斯界のビジョンに近づいた物であることがのぞましいと思う。ややもすれば今までの作品展が現実には遠い虚勢的なものとすれば、われわれのものは何処までもプロとして今日から明日への指針として、その成果を創り出したいと思う。

諸兄のご協力により“シカゴ展”以上の実のあがることを期待してやまない。（大阪支部 岡村実記）

○九州支部

作品展示会、記念講演会

開 催 決 定

九州支部は39年11月九州在住の会員約10名により、東京支部の後援の下に発足し、今4年目を迎えようとしております。

この4年間ある時期には会員の転動などにより人員の減少を見、支部活動も一時停滞し、九州地区における存在が危ぶまれていましたが、現在発足当時の10名をオーバーする人員となり、協会の発展のため、今後大いに努力しなければならないと考えております。

この時期に10周年記念事業を行なうに当り、九州地区における当協会の活動を幅広く一般にPRし、関連企業、学生、一般消費者にインテリアデザインに対する認識を深めて貰い、質の向上を計るために下記の記念事業を行なう計画を進めております。

1. 作品展示会

会員の作品と写真パネルによって会場を構成し、照明器具、テキスタイル、クラフト類も出品する。

東京、大阪支部会員の作品および写真パネルの出品協力を依頼する。

日時、会場については現在実行委員会において立案中。

2. 記念講演会

作品展示会期間中に会員内外より講師を招聘し、インテリア関連産業の動向、製作技術、デザイン理論などの講演会を開催し、九州地区の関連企業、学生のインテヤに対する認識をより一層深めて行くよう計画中。

（九州支部 香月・金子記）

○東京支部

創立10周年記念

「JID デザイン会議」

主題決定

主題

「変貌する市民生活と住いの秩序」

副題

都市化、工業化の中における

住い環境の変化と、その対応

期日 昭和43年11月下旬

昭和33年に誕生した協会は、今年で10年の輝かしい歩みを記録することになる。「10年」それは正に変貌と変化の歴史であった。永い日本人の生活文化の上で、こんなに激しい時代は、かつてなかったであろう。

経済の成長、人口の増加と都市集中生活様式の変化の中で、住い環境としてのインテリアデザインは、どうあるべきか、われわれ協会員に与えられた現代の大きな命題であり、同時に来るべき未来像への解明につながることであろう。

座談会
民間とIAI（産工試）
の相互関係

座談会の主旨

司会——J I Dは今まで会報を通じて会員相互の親睦、事業内容などの連絡、啓蒙、教養を計って来たわけです。今回J I D A並にクラフトマン協会と同様に法人格取得運動を進めています。今までのようにインテリアデザイナーの仲間うちの集りだけでなく、これからは社会的、公益的なことが附加されて来ます。そこでデザインに係の深い産工試の方々と当協会のメンバーと交流接触していくことが社会的にもプラスになるのではないかと思います。今回は当協会と特に関連の深いIAIの意匠および技術に携っておられる方々に出席していただきました。

剣持——今日はこういう機会をつくっていただきわれわれとしても喜んでいきます。われわれ国立機関の仕事はただ孤立してやっているわけではないし、各メーカーやデザイナーのご協力、ご理解を得てやっていかなければならないわけで、これを機会に協力体勢をつくって行きたいと思ってまいりましたので宜しく。

IAIの機構と内容

大野——技術の方では主に開発的なことを行なっています。具体的には接着、成型、乾燥、機械加工、塗装、製品検査（強度試験）複合構成材、難燃木材などのテストを行なっています。

剣持——意匠の方の研究は大体基礎研究と応用研究とに分けられます。その他情報収集、広報などの仕事があります。

基礎研究の方は、個々の民間デザイナーや中小企業でできないこと、また個々の企業でやるよりも国立の機関でやった方が良いと考えられる研究をしています。具体的には造形的分野の法則性を見出す研究、例えば色とか形に対する人間のもっている感情反応を実験心理学的にデータを出すことなど。もう一つはデザインに必要な基礎的データを抽出して個々のデザイナーに活用していただくことも基礎的研究といえます。

司会——団地の調査なども基礎的研究ですか。

剣持——そうです。それから応用研究としては、現在行政要請で貿易振興を

目的とした商品開発をしています。情報収集、広報活動では基礎的研究や応用研究のプロセスでできた成果を整理、保管しデザイナーを始め消費者やメーカーに知らせ活用していただいております。しかし、この点まだ不充分的なので今後活発にしなければと思っています。J I Sの問題なども工業技術院の標準部からの要請で研究することがあります。

司会——意匠第一部で生体計測を行ないましたね。

剣持——意匠第一部で人間工学をやっております。大きいえばこれもデザインのための基礎的データです。生体計測とか動作域、視知覚の問題をやっています。

民間および各研究機関と
IAIの関係

泉——人間工学の研究などIAIは独自でやっているのですが、東大、千葉大などでいろんな方向から人間工学を研究していますが、一つのジャンルの中で結びつけて行くようなことをIAIではやらないのでしょうか。

関口——それはむしろ工業技術院なり行政の方でやっていることです。

篁——IAIはそういう意味の権限はもっていません。J I Sの場合は工業技術院が所管しているのでそういう形がとれます。例えばIAIと千葉大でデータを出し、それがどちらが適切であるかは公平な判断にまかせ、それを統一してどうこうする権限は私たちにはありません。

剣持——他所でやったデータと一致することは理想ですが、ディテールで違った場合は研究者相互でディスカッションすることはいろいろな機会をとらえてやっています。

篁——例えば生体計測の問題を例にとると生体計測は科学的な問題であって、それを実際に活用するかはIAIからは離れています。IAIの段階としては行政に直接タッチしていませんから科学的な問題のみを押してゆくわけです。

剣持——IAIではその他伝統的な優秀な技術やデザインを生かして、近代生活に合致させる努力もやっています。

泉——IAIが民間企業を育成して行こうとして応用研究をして行くと、育

司会 榎 田 均
出席 産業工芸試験所メンバー
剣 持 仁
吉 永 淳
篁 敏 生
関 口 正 己
(以上意匠部)
大 野 福 也
(技術部・品質管理)
相 沢 正
(技術部・塗装)
協会メンバー
竹 内 篤
泉 修 二
三 宅 正 郎
高 橋 岩 夫
織 田 武 己
香 西 啓 三
秋 山 修 治
主催 東京・会報部会

成とは逆に民間企業が脅かされるといった可能性があるのを、それを避けて基礎研究的なものをしているのでしょうか。

剣持——そういう傾向はありません。

IAIは個々のデザイナーや個々の企業でできることを避け、国の機関でなければできないことをやっています。

泉——実際に具体的なものが出て来ていますが、IAIではデザインを担当している方はどの程度で喰い止めているのですか。

剣持——理工系の研究ですと文章でかいたり式で表わしたりして研究論文がまとまりますが、造形的なものは一つのプロトタイプを一例として提示するまであります。

司会——要は基礎研究は純然たる科学的な根拠に基づいて出すものですね。デザインは造形活動ということなので、一つの開発商品をやって行くことで見本試作とか例示的なサンプルを作って中小企業、零細企業に明示していくのがIAIの任務だろうと思います。国費を使ってデザインをしている以上民間のデザイナーと同じような形でやったのではいけないし、この辺IAIの方々は神経を使う所ですね。

関口——そのような行き方の試作活動が一つあります。もう一つは基礎研究から出てくるいろいろなデータを整理して、必要なものだけピックアップして、その試作活動をやるわけです。それが同じように見えるものでも、内容的にはちがったものなのです。

吉永——例えば家具と電気製品との結び付きがない、それを総合的にコーディネートして行くことなどもやりつつあります。

筧——具体化研究は大きく分けて三つあると思います。第1はプロトタイプの提示まで行なうもの。第2は開発デザインとでもいうか基礎研究を具体化して、できれば商品にもって行く、またIAIの基礎研究ではなくても非常に新しい技術があったり、新しい材料があった場合家具に使ってみて果して使えるものか。民間の人がそれを使うにしても非常に危険性が多いと思われるものを取り上げてやって行くことなど。第3は零細企業対策としての例示、非常に零細であったり、デザインに理解をもたない所、持っていない間

違った考えを持っている所、そういう所にこちらでデザインを通して零細企業開発、普及、指導デザインをすることなど……これはあくまで私個人の意見です。

泉——例えば「団地」の研究において生活行為を結びつけて家具などを作って行くことは開発部門の中としてやられるわけですか。

筧——やるとすればそういうことでしょうね。次にコーディネーションの問題ですが、これは具体的に進んでいませんが、今までそれぞれ個々のものとして考えられていたものが、関連性というものを考えれば、そういう面から適当なユニットができるのではないだろうか。品種によってはそういう考え方が大分できていると思いますが、そういうものをどういう面で、どの程度し得るかやりつつあります。

泉——こういう問題ですと医学的、社会的ないろいろな問題などが非常に要求されてくると思いますが、それを部内研究だけでやると大きくなっていくためむずかしくなるとは思います。IAIとしては他の官庁、行政関係やほかのものも入れて結びつけるようなことはどのくらいまで考えておられますか。

筧——デザインに関してまだないのですが、そのような問題がでてくれば千葉大とか、住宅の問題であれば住宅公団とかの共同研究はできると思います。

関口——民間の協力が必要な場合は民間との共同研究も可能です。

三宅——その辺に大部問題がありそうですね、民間企業との共同研究というのは。

司会——共同研究というのはヒフティーヒフティーですよ。国も出すけどそ

ちらも出さないということでしょうから。

三宅——ましてそれが企業の営利につながるものですね。

司会——営利につながるものでも企業で技術をもっていない、さりとて企業だけではなかなかやりきれないこともある。そこで国が半分費用をもって研究を行えば業界にも良い影響を与える。そういうものは取り上げることができる。産業界の動きとは絶えず横の連繋を取りながら研究をしているわけでしょうから……。

中央と地方の公設機関

泉——官庁の機構の中では大きな問題を取り上げて行くような場合にはIAIあたりが団結を呼びかけることができるのではないかと思います。例えば都市化問題とか環境の問題とかあるわけで、そういう問題をいろいろな機関と結びつきをもたせて行くようなことなど一つの企業ではやりたくてもできないことで、IAIなんかが一番良いのではないですか。

司会——われわれはこういう問題を国でやってもらいたいとか、通産行政の中に取り上げて欲しいといったように、業界の声をまとめて、ぶつけることが必要と思います。

剣持——業界の要望がこんなにあるということになれば、非常にやりやすくなり、そういう問題を取り上げて行くことができます。

泉——小さな企業の中で先程のような大きな問題を取り上げても、非常に視野の狭いものになってしまう。しかしそういうものを克服できるとしたらIAIなどが動いていけば周囲の人達とも結びつきができると思うのですが。

司会——IAIに対する問題が出てき



協会事務局での座談会風景 左側IAIメンバー 右側協会メンバー

ましたがあまり気にしないで下さい。素直にいうと I A I でいろんな研究をやっているが、われわれが当面なやんでいる問題と、どう関係があるのか。一般的にそういう考えの人が多いのではないかと思います。しかし協会なり業界で、I A I や通産を通じて業界としてはこういう問題をやってもらいたいと要望する必要があります。それが少いから粗縁な関係と思われ勝ちになるわけでしょう。

吉永——全家工、金属家具工業会を通して要望がでてくることがありますが、デザイン界からはないですね。

司会——例えば全家工なら輸出家具などの場合、米国ですぐ売れるものをデザインをしてくれというようなことでくる。しかし業界側がもっと条件を整理してこなければ仲々とり上げることがむずかしいでしょうネ。

剣持——家具メーカーのことはフリーデザイナーの方々は詳しいのですから、研究テーマを提案していただくことも大変結構なことだと思います。

司会——協会の中でも当面なやんでいる問題を出し、それを分科会式にインテリア業界、箱物業界などで、例えばプラスチックの問題とかアルミの問題が出てき、それでは、これをどうすれば効果的に産業に結びつくか。そういう状態になると非常にいいのではないですか。

剣持——個々のデザイナーや企業で、できないことがあるんだが I A I でやったらどうだろうかというようなことがありましたら……ただ考えていたきたいのは、地方の公設機関と国立機関との違いです。地方機関ではむしろ今日すぐ役立つ問題が主になりますが、国立の場合はもう少し長期的なことであればいいわけです。

相沢——I A I ではテーマを決めるのにどれを優先させるか困っているんです。一般の声がのぼってこないのも一つの理由でもあるし。

司会——業界は要望したところで予算がとれるかわからないので、おそらく手を上げてこないのではないかと思います。現状では業界がこのような問題を要望しているのではないかということで実施しているわけでしょう。それが非常にリアリティーがあればいいのですが、業界の実態などにふれていな

いと効果的でなくなるわけです。そういう意味で交流して、問題点を聞いていくことが大事だと思います。

新庁舎で低含水率乾燥を行なう

司会——木工課の新庁舎はどのような必要でできたのですか？

大野——35年当時わが国の米国に対する木製品の輸出は、その約半分がイスだったので、イスを主体に取り上げた。米国では木材の平衡含水率が乾いたところで約5%であるのに、日本の梅雨時ですと15%にもなるから向こうでバラバラになってしまうことが多かった。データーによると乾燥室を出て完成品まで箱物で約10日位かかりますが、梅雨時など暑くなると加工場の窓など開けて作業をするため10%位まで乾燥したものがもどってしまう。乾燥室に適合した室内条件でコントロールできれば、ということで37年新庁舎ができたわけです。そして高温高湿における木材加工の加工条件をみたわけです。今では富士ファニチャーなどもこういう条件をもってやっています。

泉——林業試験所でもやっていますネ。

大野——林業試験所では国内を対象としてやっていましたが、輸出においてはそのデーターは不十分でした。そこで I A I では低含水率乾燥をやったわけです。

泉——結果報告は農林省などと交流されていますか。

大野——結果報告は各大学や公設機関に行きますし、向うからも文献交流で I A I に届きます。

剣持——民間の場合はご希望があった場合、配布しています。もっと広報活動を強化する必要がありますネ。

三宅——今後、教えていただければ、J I D の会報にも載せるようにしたいと思います。

情報および調査活動

三宅——相談しに行きたいときの窓口はどうなっておりますか。

剣持——相談所もあるし、直接われわれのところにみえる方もあります。

司会——産業界と話し合ったときですが、新材料が沢山でてくる中で、それをどう効果的に使ったらいいのわからないので、技術的にもデザインの的にもある程度、明示していただきたいというってありましたが。

関口——新材料の場合テクニカルデーターを信用するより方法がないのではないですか。

剣持——技術的な情報は何よりも大事だし、個々の研究員が集めた資料も集積すれば資料が作れるので、そういうものをもっと活用することも本当は一番大事なことだと思います。

司会——そういう点でも調査活動は必要だと思うし、材料メーカーと異った何かが出てくると思う。業界からも要望があれば I A I としてもやりやすいのでしょうか……

三宅——要望があれば可能ですか。

篁——徐々にその方向にもっていくことは可能だと思います。

司会——ネックになっているのは予算が足りないことと、デザインを理解する人間が少いことでしょうネ。

泉——中央と地方の研究所を比べたとき技術的にはあまり感じないが、意匠においてはギャップがありすぎると感じています。

篁——試験所展を見てわれわれも感じています。

剣持——デザインは生死にかかわる問題でもないので後回しにされることがありますネ。地方機関との連繫をとるのが I A I の使命でもあり、その点責任を感じています。

司会——日本全国にバラまかれた貴重な人材でもあるし、孤立しているデザイナーを例えば集約するのも方法だし、中央のデザイナーとのデスカスの場を作ることも方法だと思います。

司会——これからの計画というか研究など何かありましたら。

相沢——塗料においては木材にも工業標準色のようなものを考えています。

織田——品質表示をもっと厳しくやることはできないでしょうか。

剣持——実際は材料表示になっていますが、家具においてはなかなかむずかしいと思います。

篁——ユーザーやメーカー側の意識に合わせてやるより仕方ないと思います。

インテリアにおけるコーディネート

司会——先程、篁さんからコーディネートのことが出ましたが、日本産業というのはソニーはソニーカラーということで打出していますが、各メーカー

のものをユーザーは同じ次元で使うわけですが……

関口——オープンシステムでやる方法と社の中でのそういうシステムで行なうクローズの形でやる方法とがあります。

相沢——愛知木工団地ではオープンの形をとっていますネ。

司会——箱物デザイナーとかイスデザイナーといっている時代でもないし、コーディネートの問題を取り上げているかなければならない。インテリアデザイナーはそういう立場に立ちうるんじゃないか、部品加工とかコーディネートの問題とかJIDA、クラフトのデザイナーとも横の連繫をもち秩序をつくってこくことは社会的にも大きなことではなかないかと思います。ステップとしてクローズからでないとなかなかできないことかもしれません。

泉——徹底的にやろうとしたら社会組織が変らなければできないのではないですか……。

筧——コーディネートの方法は全体から部分を考えて行く方法と、コーディネートできるものから徐々に範囲を広げて行く方法の2つの方法があると思います。現実的なものから進めていくのが一番着実だと思う。建築においてもプレハブ化が進んでくると問題はますます混み入ってくるし、コーディネートの問題は当然でてくると思います。

司会——製品によっては頂点にきているものもあるし、今後大いに改善を加えて行かねばならないものもある。また世界の市場製品をしのぐことを考えなければならぬものなどがあります。そういう意味でも具体的なキリ札としてもコーディネートの問題が必要だと思う。個々のデザイナーだけでは限界もあるし、各分野でいろんな角度からながめていくことが大事ではないでしょうか。

筧——今までは家具と建築というような使用別分類をしていたが、これからは材料別研究が入ってくるし、産業分類も違ったものが入ってきて、企業分類も大きな問題として考えられると思います。

司会——通産の従来の産業分類はおかしいですネ。

泉——今までのシステムでやっているとかコーディネートなどの問題が生れて

こないのではないのでしょうか。

筧——ある意味では今のところ混乱状態だし、考えなければならぬことだと思います。

デザイナーの態度と社会的な関係

吉永——インテリアデザイナーでももっとID的な訓練をしなければならぬと思います。

司会——それはデザイナーの責任でもあるし、企業の責任でもあると思います。

関口——商売の場でやっていると自分の満足のいくものをストレートに出すことはむずかしいと思います。

泉——ID化が進めばデザイナー個人の名前が消えていくと思いますが……。

筧——それはいちがいにいえないと思います。ある意味では個人は組織の中に埋没するのが理想とされているが果してそれがいいのか……技術の方で個人の名前が出てくるシステムがあるいは出てくるかもしれません。

泉——最終的な形でやったかのごとくデザイナーの名前だけがでてくる。

筧——ただイスならイスで個人の名前で出てくる、これは独自の仕事をしたのがデザイナーしかいなかったからではないですか、技術面で特異な仕事をしたとすれば、その人の名前が出てくるのは当然だと思います。

司会——加工は加工、材料は材料それを秩序づけて1つの目的に合目的性を与える。それがデザイナーの仕事な訳ですネ。

泉——今のところ意匠を担当したものだけが先に進んで、表にたたされている状態ですネ。

筧——かつて映画で女優の名前だけしか出ていなかったが、今では監督から照明まで名前が出てくる。デザインの面でも同じだと思う。そうでなければ創作的な仕事は出てこないと思うし……

IAIに希望すること

香西——試験所展を見て感じたことだが、われわれは現実には追れて先のことを考えることができないし、もつと未来像を示していただくと参考になるが

筧——今までに無いような試みのものを一般の方々に見せることにより、民間のデザイナーがもっとやりやすくなるかもしれない。われわれはそういう

こともやる必要があると思っています。立場上むずかしい状態にあるが、徐々にそういうこともしたいと思っています。

香西——形で示してくればメーカーも、そういう方向に進むと思います。

秋山——造形的、感覚的なものがデザインを生むものとして考えられますが、洋家具を造っている人達の意識調査みたいなものはIAIなんかではないのですか。現状においては作る側とデザイナーとのデザイン意識が分離しているような状態です。最終的には教育の問題まで発展することかもしれません。

筧——一つはシステムの問題も大部あると思います。あるメーカーにおいてはクラフト的ないき方をしており、職人のサインを押しているところもあります。またグループによって最初から最後まで仕上げるというシステムをとっているところもある。作る人の責任を感じさせる意味においては、いろんなシステムが考えられると思います。

秋山——デザインとは総合的なものと論じていながらも、なかなかそのへんの問題を考えようとしませんが、公の機関であるIAIでは、そのような教育がやりやすいと思うのですが……。

泉——徒弟制度の時代は形は違っていますが意識ははっきりしていたように思います。それが部品化などの問題を考えた場合、製作工場では部品だけしか見られなくなってしまう。その中で人間の動きがあるとすれば、どんな形で人間と製品の結びつけをすればいいのだろうか。

筧——作る者は勿論ですが、消費者も自分で環境を作っていくという意識に変わってこなければならぬと思います。メーカーの側でやっていたことのある部分を消費者が受け持つようになってくる。つまりホモサピエンスからホモファーベルへ消費者の意識を改変しなければならないと思うし、そういう必要を感じます。

司会——話しが熱中してきたところですが、時間がきてしまいましたので……これからもこういう機会を作って協力体制を作り、交流していきたいと思っています。(誌面の都合により、一部省略編集を致しました。会報部)

43年度
第1回

理事会
合同委員会報告

本年度第1回の理事会は新理事長の選出並びに新協会発足準備・10周年記念事業など累積する諸問題の解決のため、5月11～12日大阪府淡ノ輪の大丸保養所において開催された。

出席者

理事9名 委員4名

東京・泉・狩野・白石・竹内・豊口

・中村・山口 原 三宅

大阪・岡村・川崎 合田

九州 金子

理事委任状4名（・印は理事）

(1) 42年度本支部事業活動経過報告

本部は中村理事長より報告、42年度全般を通じ各事業は活潑に展開された。法人格問題はJIDAと歩調を合せ進められ、現在の予想では8～9月頃に取得できる見込み。「日本のインテリア・デザイン」の発刊は、現在100年史を除き編集が終り印刷の段階に入っている。併し当時予定された5月発刊より遅れ9～10月になる見込みである。

組織の拡大と充実面では、東京・九州地域は組織活動を通じ正会員9名、準会員9名の新入会員を迎えた。

東京支部は泉事務局長より報告、月例会開催を会員並びに会員外も対照とし年間事業を検討した結果、最近は会員外の参加が多く、今後もこの方針にそい活動を推進する。その他の事業は本部と一体であるため報告は省略する。

大阪支部は岡村支部長より報告、前理事会に報告済みの如く、組織の体質改善のため役員の若がえりと事業活動への会員参加に勤めてきた。43年度予定の作品展覧会は大坂地域の事業として、特に重要な要素をもっているの

で、これを契機に活動を展開する。

九州支部は金子委員より報告、42年度後半、研究会・見学会を積極的に開き、これらを通じ正会員2名を新たに迎えた。今年度は会としての10周年事業の一環とし、九州地域でも本支部の協力をえ何んらかの事業を行なう予定である。

(2) 42年度決算報告および監査報告

42年度の収入は正会員が予算の93%

準会員73%、賛助会員74%で準・賛助会費の収入が低かった。

支出面では全体に予算内におさまったが、理事会の出席率が高くなり会としては嬉ばしい現象であるが、予算計上が少なかったため多少オーバーした。

配布金は大阪支部事務所設立準備金として優先的に廻す予定であったが、全体の収入率が低かったため大阪支部5万円、東京九州両支部は配布金0と決った。

以上の決算に対する監査報告が岩瀬監事より書面で事業内容と決算内容に相違ないむねの報告がされた。

(3) 43年度理事長・副理事長選挙

定款に定められている理事の互選により新役員が決定した。

- ・理事長 豊口克平
- ・副理事長 岡村 実
- ・（本部監事 岩瀬要三 依田勇夫）

(4) 43年度本部組織と役員の業務分担

- ・事務局長 竹内 篤
- ・財務部長 野口寿郎（副）渡辺敏雄
- ・渉外部長 坂田種男（副）樋口 治
（日本デザイン団体協議会委員
剣持 勇・坂田種男）
- ・広報部長 白石勝彦（副）本田安治
- ・会報部長 三宅正郎（副）本田安治
- ・事業部長 山口勇次郎（副）福岡喜久雄
- ・出版委員長 渡辺 優（副）川崎 浩
- ・標準仕様書

- 委員長 長 大作（副）渡辺俊雄
- ・10周年記念事業委員長 狩野雄一
東京：中村圭介 渡辺 力
白石勝彦
大阪：川崎 浩 樋口 治
九州：坂本康四
- ・新協会設立準備組織委員長 中村圭介 山口勇次郎 竹内 篤
川崎 浩 本田安治

今年度事業推進のため、本部組織の改革を行なった。広報部の中に対外PRと会報が含まれていたが、新たに独立させ機関誌の充実をはかり、対外PRを積極的におこなうことになった。

事業部を本部に新設したのは、会全体の月例事業の計画管理をおこない、会としての充実と合理化を促進するためである。

議 題

- (1) 42年度本支部事業活動経過報告
- (2) 42年度本部決算報告および監査報告
- (3) 43年度理事長、副理事長選挙
- (4) 43年度役員業務分担
- (5) 新協会結成基本方針審議
- (6) 43年度事業計画具対策および予算審議
- (7) 新入会員審査

10周年記念事業は各地域が主体となり、その地域に適したものを開催するが、全体の歩並をそろえ且横の連絡を密にするために組織化した。

組織委員会は法人格問題の渉外活動並びに定款・細則の研究をおこない、新会員募集のためリスト作制を行なうため新設した。

(5) 新協会結成基本方針審議

すでに各支部総会において審議可決したものの細部にわたり逐次審議をおこなった、主な点は。

新入会員の範囲を広め、デザイン管理者などを含めた基準を具対的に作ること。

理事会が事業を遂行することになっているが、実際上の執行権は各事業部にゆだね事業の独自性をもたせ、会の充実をはかる。

理事選挙で中央集権的になる恐れは現在の会員分布から見て考えられない、事実上各地域の比例代表制となり、各地域の意志が反映されるので心配ない。

以上今後の通産省との折衝、民法上の諸問題を組織委員会で研究し、新協会発足の準備を進める。

(6) 43年度事業計画の具対策審議

新理事長のもとで今年度事業の具対策を計画方針の線にそい逐条審議された。

事業計画の 1. 講演会 2. 研究会 3. 見学会 4. 報告会のいずれも本会の重要な事業であり、各地域の実状に応じた計画を推進するため、各支部はも

ちろん本部に事業部を新設し、全体計画とその推進役をはたすことになった。

5. 作品登録およびデザインの相談紹介で作品登録は現在出版委員会で集録している作品写真を整理し、これを中心に今後積極的に集めることを当面の目標とする。デザインの相談紹介事業は、新協会発足後その具対案を検討する。

6. 企業内デザインスタッフの指導は現次点では保留とし、次会までの研究事項とする。

7. 内外諸団体の協力は渉外部が主力となり実行する。

8. 創立10周年記念事業は狩野委員長より具対案が提出され、東京地域の基本方針が決り細部は実行委員会に一任することになった。また大阪地区も作品展示会を検討中との報告があった。メインテーマは次の如く決定。

主題「変貌する市民生活と住いの秩序」

(都市化・工業化の中における住い環境の変化とその対応)

東京地区開催 1968

デザイン会議

日時 43年11月 日 9.30~17.00

会場 候補会場

朝日講堂 東京文化会館

都市センター

プログラム 午前9.30~12.00

基調講演 会員デザイナー

記念講演 建築評論家

午後 13.00~17.00

[主題によるシンポジウム]

講師 評論家 経済学者

建築家 医者

劇作家 デザイナーなど

会場作品展示

会議場内に会員の作品写真パネルを年代別または類別に展示

記念パーティー

同日 18.00~20.00

同会場または会議場に近い会場

9. 日本のインテリアデザインの発刊は出版委員会の努力により多少の遅れをみたが、発刊予定が明確になった。時期は10周年記念事業の対外PRを兼ねおそくも9月中旬に発刊することを確認、全会員2冊以上販売できるようPRをおこなう。

10. 会報の出版は年6回とし、全国機関誌としての内容を充実すると共に対外的に発表できる資料などをもち込む方針である。また今年は10周年を迎えるため、9~10月頃東西合同編集会議を開き、10周年特集を発行する予定である。

11. 標準仕様書は数年にわたる調査研究により、一般共通事項はほぼ完成に近ずき、今年度後半に制定させる。また技術データブックの出版は内容にいろいろ問題があり、今年度は研究段階とし明年度事業に入れる。

12. 協会賞は現在集録されている作品と、日本のインテリア出版に関して集録したものを中心に資料整理を出版委員会で行ない、その次点で選考委員会を選出し、10周年記念事業開催時に表彰するようにする。

13. 組織の拡大と充実は、会の諸活動を通じ会員を勧誘すると共に新協会発足以前に組織委員会で有資格者リストを作り案内を送り積極的勧誘をはかる。

以上13項目の新事業計画の具対策と予算が審議された。

(7) 新入会員審議

東京支部より垂見健三氏・長沢精一郎氏・高橋岩夫氏・渡辺正和氏の審査申請が提出され、全員資格あることが認められ、会員として迎えることになった。

準会員は各支部より入会手続きが完了したことが報告された。

(新入会員欄参照) (竹内・泉記)



写真：5月11, 12日 大丸保養所にての理事会風景

43年度役員一覧 (五十音順)

理事長 豊口克平 副理事長 岡村 実

東京支部長 中村圭介

大阪支部長 岡村 実

九州支部長 坂本康四

支部役名	氏 名	本部役名	支部役名	氏 名	本部役名	支部役名	氏 名	本部役名
支部委員	泉 修二	理 事	支部委員	岡 実夫	理 事	支部委員	金 子 誠 之 助	理 事
"	狩 野 二	理 事	"	原 秀 正	理 事	"	香 月 本 一	"
"	川 上 持 男	"	"	崎 田 正 周	"	"	坂 本 康 四	"
"	剣 坂 種 男	理 事	"	合 野 口 茂 治	理 事			
"	白 竹 石 内 中	理 事	"	沢 野 口 喜 久 安	理 事			
"	田 長 豊 中 野 原 三 山 渡 渡	理 事	"	樋 福 本 村 渡	理 事			
"	山口 勇次郎	"						
"	柏原 秀夫	"						
支部監事	岩 瀬 要 三	本部監事	支部監事	上 辻 謹 一	本部監事	支部監事	幸 重 篤 典	
"	鈴木 富久	"	"	依 田 勇 夫	"	"		

43年度事業組織および構成メンバー一覧 (順序不動)

(43・6・30 現在) ・長 △副

部・委員会名	本部担当	東京支部担当	大阪支部担当	九州支部担当
事務 局 部	・竹内 篤 ・野口 寿郎 △渡辺 敏雄	・泉 修二 ・野口 寿郎 田中 聰行	・合田 正甫 ・渡辺 敏雄	・坂本 康四 ・金子誠之助
渉 外 部	△渡辺 敏雄 △坂田 種男 △坂田 種男 (剣持 勇 ・白石 勝彦 △本田 安治 ・三宅 正郎 △本田 安治	・坂田 種男 剣持 勇 ・白石 勝彦 ・三宅 正郎 竹内 篤 泉 修二 高橋 岩夫 牧野 達夫 鈴木 栄二 香西 啓三 織田 武巳	・樋口 治 ・本田 安治 ・本田 安治 川崎 浩 合田 正甫 児玉 潤吉 並川 拓史 房谷 守啓	
(日本デザイン団体協 議会委員)				
広 報 部				
会 報 部				
事 業 部	・山口勇次郎 △柏原 秀夫	・山口勇次郎 川上 信二 原 好輝 池辺 武彦 吉永 淳	・[事業部] 柏原 秀夫 合田 正甫 沢野 周二 福岡喜久雄 ・[研究会] ・野口 茂 村尾 栄 ・川崎 浩	・香月 寿一
出 版 委 員 会	・渡辺 優 △川崎 浩 ・長 大作 △渡辺 敏雄	・渡辺 優 山口勇次郎 秋山 修治 水之江 忠臣 ・長 大作 田中 聰行	・渡辺 敏雄	
標準仕様書委員会				
10周年記念事業委員会	・狩野 雄一 △岡村 実	[委員会] ・狩野 雄一 白石 勝彦 渡辺 力 中村 圭介 会 場 狩野 雄一 ・渡辺 力 中村 圭介 講師 テーマ 白石 勝彦 ・狩野 雄一 三宅 正郎 渡辺 力 印刷広報 印彦 延周 ・白石 勝彦 森谷 延周 財務・総務 ・中村 圭介 田中 聰行 剣持 勇 岩瀬 要 野口 寿郎 竹内 篤 10年の歩み出版 ・山口勇次郎 泉 修二 記念パーティー ・坂田 種男 原 好輝 岡本 賢三 会場作品展 力 ・渡辺 修治 渡辺 優 秋山 修治	・岡村 実 [企画部] ・川崎 浩 準備 浩 上野 忠臣 川崎 秀夫 推進 久雄 沢野 周二 福岡喜久雄 安治 拓植 厳吉 本田 拓史 児玉 潤吉 並川 拓史 [渉外部] ・樋口 治 広 報 治 藤川 宏允 樋口 治 渡辺 敏雄 村尾 栄 三上 泰伸 協 賛 野口 茂 敦 野口 常持 [会 計] ・合田 正甫 上辻 謹一 依田 勇夫	
法人化組織準備委員会	・中村 圭介 △川口 勇次郎 山崎 治 竹内 篤 本田 安治			
総 務 部			・川崎 浩	

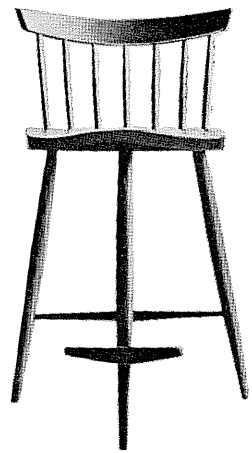
世界的な「木匠」として
活躍する
ジョージ・ナカシマ氏

先日新宿HALCで開かれたジョージ中島展の入口に大きく「手」の写真が飾られていた。あれは米国で有名な画家であり中島さんの親友であるベン・シャンの作でジョージの手を彼のために画いたものである。ベン・シャンのことはわれわれには余り知られていないが、画家脇田和さんのお話によると、非常に作品のすくない人で日本でも展覧会を数回計画されたが、現在まで実現を見るに至らず、今回始めて中島展に出品され、同展を更に良いものにしていく。今回も老齢のため日本に来ることができず残念がっておられたとのことである。ジョージ中島さんのことは数年前より美術誌などに度々紹介されているので協会の皆様は良く知っていただけることと思うが、このように沢山の作品に接することのできたのは始めてのことと思う。日本に來てからの作品なども数点ありほんとうに良い展覧会であった。われわれとしては関係者のご好意を深謝しなければならない。

彼の住んでいるペンシルバニア州ニューホープというところはニューヨークより車で2時間程、更に自動車で1時間余山に入ったところの1万数千坪の雑木林の中に住宅、ショールーム、作業所などが点々と建てられ、現在は9棟になったとか、起伏の多い敷地内は小さな電気自動車などで廻り、冬は自分の敷地内でスキーを楽しむことができるとか、私の訪ねたのは7月末で早朝であったが、汽車の駅まで迎えに来て下さり、米国のハイウェイを約1時間程で彼の家に着いた。入口はヨーロッパの国境などに良く見るような、またわが国の踏切りなどにある丸太棒が横にしてあり、入る時には車を降りてこれをはね上げて入る。空気のきれいなみどりの美しい静かなところで、この丸太棒をはね上げる作業服を着た中島さんは、にやっと笑って私を招にき入れた。ひとやすみすると彼は私鍵たばを、「どの棟でも良いから自由に入って見て下さい」といって渡してくれた。また「昼寝をすると気持ちが良いですよ」ともいって自分は仕事があるからといい作業場に入ってしまった。私もこの訪問は彼のありのままの姿を見、また仕事ぶりなどを見るのが目的であったので大変好都合であっ

た。林間に建つ作業場は仕事の内容によって棟が違うようであり、機械加工の棟なども大きな機械は無い様子であったが、精度の高いものようでありまた塗装の棟、名木の倉庫などもあり、世界の名木が集まっており、何れも素晴らしいもののみである。忙しいヨーロッパ旅行の帰りに久し振りに木のおいをかき、私も何か落つきを取りもどしたような気がした。仕事場には目の青い職人さんなどが三三五五と集り熱心に仕事をしている。ある職人は自分の仕事場の外に小さなテントを樹にしばり付けポータブル電気工具や仕事を持ち出し、樹間を吹抜ける涼風をうけながらさわやかに何か小さな細工をしている。昼になるとこれら職人さんなどは少しはなれた変形のキレイなスウィミングプールサイドの建物に集り、中島テーブルに各々持参のベントーを開き、食べ終ると水泳を楽しんでいる。これらの人達は下の町から車で通って来る。正に天国である。

これらの建物の一つにショールームがある。建築の設計から内部のものの総てが中島さんの作品で、中にベン・シャンの絵や、日本の鯉のぼりの鯉など



が飾っており、週一回特定の日の午後以外は開かない。しかしそれ以外の日に來られた客は如何に遠来の客といえども帰って戴くことにしている。中島さんの仕事には図面はない、木と向い合い、木と話し合って形が出来て行く、だから同じものは二つない。量産に向くものだけを図面によりまた見本により作って行く。勿論大量生産はできない。また見込生産もやっていない、でき上るのを半年でも1年でも待つ人のために仕事をしている。

このたびの展覧会で米本国より持っ



て来たものに良いものが多かった。材料といい、加工技術といい、わが国の指物技術の上に行くものを感じず。わが国で失われつつある指物技術を彼なりの育て方をしてアメリカに残しつつある。彼の仕事は米国であるためにできるのであろうが、われわれにも近代技術のみを追わずこのようなわが国の技術を保存することに留意しなければならぬまい。

彼はいう「私の作品は日本技術の里帰りです」。と!!

われわれは昼食のため奥さん子供さんと共にニューホープに下りて行った。晴れ上ったミドリの美しい、柳のしだれ流れる小川のほとりのレストランの食事は心のこもった美味しいものであった。この町は都会の雑踏をさけて来た人達によってかなり賑っており、いろんな土産物屋さんの中で日本品だけを取扱っている店があり店内に入って驚いた。品々の選択が非常に良いことでニューヨークなどの日本品売店などに見られないグレードの高いもののみを取揃えてありほんとうに意外であった。この店は建築家アントニー・レーモンド氏の夫人の姉さんのお店と聞きやうと納得することができた。米国東部の田舎町で良質の日本デザインに接しほんとうに嬉しかった。大都会のわずらわしさをさけ田舎に来てほんとうの米国を見たような気がする。昼食後マーケットや農家で夕食の品などを取揃へ山に帰り再びいろいろお見せ戴き、夕食は彼の作った蟻塚のような炉で焼いたローストビーフや農家から

仕入れたコーンにバターをぬりスカッチの水割などで夜のふけるのも知らなかった。つい数日前パリの「マキシム」のメインテーブルでの食事より数倍美味しくまた楽しい夜であった。当時建築中の彼のいう「芸術会館」もでき、またゲストルームもできたので是非ゆっくり仕事に來いといって帰られたが、あんなすばらしいところで敷地内に水を呑みに来る野生の鹿と遊び、野うさぎを追い、野鳥のさえずりを聞きながら仕事ができたらこんな幸せはないだろう、是非実現したいと念願している。

ジョージ中島さんのことは美術出版の「デザイン」6月号の剣持さんとの

対談、また「芸術新潮」5月号神代さんの「木の精と語る」の一読をおすすめする。

1968.6. 小林保治

略歴

1905年アメリカ生れ。ワシントン大学、マサチューセッツ大学建築学科卒。1930年アメリカMIT建築修士の学位を受ける。1934年A・レーモンド建築設計事務所入所。1937年インドでボンディシリ寄宿舍の仕事に従事。同年マリオンオカジマと結婚。1941～43年年第二次世界大戦中抑留。1945年終戦、ニューホープに土地を求め工房を開設した。1952年アメリカ建築家協会、ゴールド・メダル賞受賞。



よき素材との出合が、ゆたかな発想を生む。その質感・木目などに合わせて簡潔にスケッチが板の上に描れる。

新刊図書紹介

・試作品写真集

産工試では、7年からの家具、クラフトの試作写真集を出しております。欲しい方は事務局まで申込んで下さい。

・ヒューマンファクターズのすべて

一デザインのための人間工学一

産業工芸試験所編

本書は工業デザインにたずさわる方々にとって好資料となるものと思います。購入ご希望の方は右記財団にお申込み下さい。

領布価格 1部 ￥300

・日本のインテリア 1

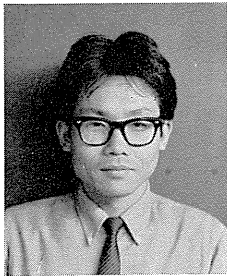
編集 日本室内設計家協会・出版委員会
☆予約申込をまだしていない方は事務局まで至急をお願い致します。
9月中旬発行 (会員予約価格 ￥2,300)

送料(概算)

部数	都区内	関東近辺	大阪青森	北海道九州
1	85	85	85	85
10	90	150	200	280
30	200	330	440	610
50	290	480	640	890
100	550	900	1280	1650

宛先 東京都大田区下丸子4-21-1
産業工芸試験所技術相談所気付
財団法人 工芸財団

新 入 会 員 紹 介



正会員（東京）^{たるみ けんじ}垂見 健三

（昭和8年7月25日生）

千葉大学工業短期大学部木材工芸科を36年に卒業され、すぐQデザイナーズに入社、現在では中堅スタッフとして活躍しておられます。

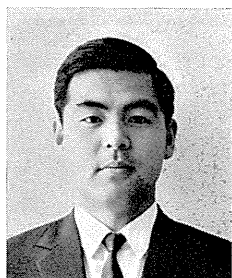
推薦者の狩野雄一・渡辺力両氏は、「めぐまれた才能とたえまない努力によって、すでにコンペでは種々の賞を得ており、創作的・個性的デザイナーで作品も多く、また専門誌に自己の主張意見を発表している健筆家でもあるとのべており、有力な若手協会員として推薦しております。

勤務先 Qデザイナーズ

TEL (263) 0901

現住所 千葉県市川市八幡3-15-7

TEL 0473 (25) 2172



正会員（東京）^{ながさわせいいちろう}長沢精一郎

（昭和12年12月12日生）

千葉大学木材工芸科を37年に卒業、東横を経て39年に森京介建築設計事務所勤務、インテリア部門のチーフとして活躍しておられます。39年すでに準会員として入会されており、推薦者の狩野雄一・森京介両氏は「非常に秀れた才能で建築空間の表現にインテリア面から重要な仕事をしており、これ

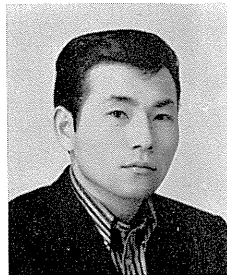
からの本格的インテリアデザインの確立に努力しているので、将来期待できる」とのべております。

勤務先 森京介建築設計事務所

TEL (386) 3192

現住所 千葉県船橋市小栗原町1-199

TEL 0473 (35) 1903



正会員（東京）^{たかはし いわお}高橋 岩夫

（昭和17年5月31日生）

岩手県立盛岡工業高校工芸科を36年に卒業、魁木材工芸(株)を経て、4月より三宅建築造型事務所に勤務されています。40年に準会員として入会されており、このたび正会員に承認されました。今もなお、会報部員として編集や連絡の地味な仕事に強い責任と努力とで献身的に活動してくれるので、会報部会の支持は大きく、推薦者はもちろん部長の榎田均氏をはじめ三宅正郎・竹内篤・泉修二の諸氏です。

「プロダクトデザイン、グラフィックの分野に堅実な情熱を注ぎ、いわゆる造形性…そして営業性の面にもたゆまぬ努力を積み重ねている実力は正会員としての風格があり、一層の活躍が期待される」と推薦のことばは異口同音

勤務先 三宅建築造型事務所

TEL (400) 8266

現住所 港区南青山4-4-4 飯田方



正会員（東京）^{わたなべ まさかず}渡辺 正和

（大正13年11月13日生）

東京高等工芸学校木材工芸別科を19年に卒業され、27年にフリーとして株

式会社ワタナベを設立、現在に至っておられます。推薦者の島田重義・渡辺力両氏は「早くからフリーとして活躍し、一般インテリアや個人住宅を数多く手がけており、心は強く個人的にコツコツと研究をしておられ、正会員としてキャリアは十分」と推薦しておられます。

事業所 株式会社ワタナベ

TEL (421) 9200・3184

現住所 世田谷区駒沢2-57-8

TEL (421) 9200・3184

準会員（東京）^{いがらしさだお}五十嵐 禎夫

（昭和17年12月3日生）

高材卒業後鈴木富久治氏に約一年間師事を受け、その後多摩美術大学・立体デザイン科を42年に卒業され、今井滋デザイン研究所に勤務されております。推薦者の今井滋氏は「アイディア表現力共にすぐれており、将来日本の中堅デザイナーとして活躍してくれることと思います」とのべておられます。

勤務先 今井デザイン研究所

TEL (873) 7892

現住所 台東区東上野3-27-5

準会員（九州）^{いしまつ いさと}石松 軍人

（昭和16年1月4日生）

大分県立白田林工高等学校・木材工芸科を34年に卒業、立春木工を経て現在のみどり家具工業(立春の傍系工場)に勤務されております。推薦者の幸重篤典氏は「今年の全優展ではみどり家具工業は彼の努力によって初出品、初入賞を獲得しており、非常に真面目な努力型の人であると確信致します」とのべられております。

勤務先 立春木工 TEL 4310

現住所 福岡県大川市向島上野団地
16-1-18

準会員（九州）^{きくたけ きよてる}菊竹 清輝

（昭和17年1月31日生）

福岡大学商学部を39年に卒業され、立春木工企画室に勤務され、常に創作活動を行ない、熱心に研究しておられます。推薦者の幸重篤典氏は「社内外の評判も良く、時々ユニークな作品を発表し将来楽しめる人だと思います」と語られております。

勤務先 立春木工 TEL 2182

現住所 大川市酒見船橋279
TEL 2181

準会員（東京）^{たかだ きくえ}高田紀久枝

（昭和10年1月2日生）

桑沢デザイン研究所・住宅デザイン科を40年に卒業、坂倉準三建築研究所を経て現在の富士装備KKに勤務されております。家具デザインの実務経験を重ねる傍二級建築士でもあり、推薦者の山口勇次郎氏は「常に技術の勉強をしている人で作品も追々できている現状で、大いに将来期待できる人」と申されております。

勤務先 富士装備株式会社
TEL (453) 6791

現住所 町田市本町田97 本町住宅

（イ）431
TEL 047 (24) 9040

準会員（九州）^{あきた すみたか}秋田 純孝

（昭和14年1月2日生）

大阪工業大学建築学科を36年に卒業され、高島屋大阪支店を経て今春福岡出張所に転勤され現在に至っております。推薦者の金子誠之助氏は「現実を直視し未来を語る」一連のデザインを手掛けて、この九州の地に新風を吹き込み大いに活躍されることを期待し、会員として推薦します」と語っておられます。

勤務先 株式会社高島屋福岡出張所
TEL (28) 5662~4

現住所 福岡市庄浜町2-95-12

準会員（九州）^{ごとう いさお}後藤 勇雄

（昭和13年2月2日生）

京都工芸繊維大学・意匠工芸学科を38年に卒業され、高島屋設計部においてインテリア・デザインの実務を5年間経験され、43年より九州産業大学の講師となられ、ビジュアル・デザインを担当されております。推薦者の金子誠之助氏は「研究熱心でユニークなデザインをされるので、会員として大いに活躍して頂ける人です」と語っております。

勤務先 九州産業大学芸術学部デザイン科

TEL (68) 1831

現住所 福岡市下和白海岸通り1572-10 若林真次郎方

□賛助会員紹介

従来の機械織カーペットの観念を変える

ダイワ・カーペット

PAT NO 729376

特徴

1. 普通の機械織に比べ打込密度がこんで（時間8×10～8×B段）耐久力に富んでいます。
2. 特殊な工法で「ジョイント」を行ない、一見表面に「ジョイント」目が見えません。
3. 従ってどんな変型でも一枚物で納入し「ロス」もR部以外は殆んどありません。

大和絨毯販売株式会社

東京都港区新橋2-2-3
電話(591)0301・0302・0508
工場大和絨毯株式会社
静岡県駿東郡裾野町佐野

●イスを作って半世紀、わが国家具産業界のパイオニアとして、創業以来50余年にわたる歴史豊かな会社です。

●経済的な高級家具をモットーに材質の吟味、デザイン・機能面の研究に特に力を入れています。

●伝統・信頼・実績の豊かさのなかから生れたコトブキ製品は、オフィス・学校・劇場・スタジアムをはじめ、公共施設に採用されています。

イスのコトブキ

東京・有楽町 TEL (591) 1311 (代)

月 例 会 報 告

第 1 回月例会

5月28日(火) PM6.30~9.00

会場 都道府県会館

講師 井上 猛氏(会員)

「イタリアのインテリア・デザインについて」

会員である井上氏が去年12月より今年1月にかけてヨーロッパを廻られた報告会であったが時間の関係でテーマをイタリアにしばって話していただくことにし、スライドもケルンの国際家具展、ミュンヘンの国際手工芸品展の中のイタリア関係を主としてまとめていただいた。氏の家具に対しての造詣の深さは、われわれのよく知るところであるが、その氏の現在のイタリアを見る眼を聞くことの魅力が会場一杯の入場者となったようである。入場者は会員31名、会員外32名。

第 2 回月例会

6月25日(火) PM6.30~9.00

会場 都道府県会館

講師 桜井成広氏(日本城郭資料館長
日本城郭協会理事・青山学院大学教授)

「日本の城とそのインテリア」

城はその時代、その土地の最高のものであったということから、建築的な角度からの話より、庭園、着物、料理にまで及ぶ話は大変興味深いものであった。それが西洋の城と比較して話さ

れるのでなおさら興味つきないものがあり、天主閣についても金閣寺から甲府城、安土城、江戸城、大阪城などそれぞれの特色など特にインテリアに重点を置いて話され、有意義な研究会であった。当夜は雨が降り条件が悪いにもかかわらず、会員23名、会員外3名の出席者であった。

第 3 回・4 回月例会予定

第3回は7月9日 来栖義郎氏による「アメリカ家具市場について」を開催、氏の3年有余のアメリカ滞在に調査された資料も配布していただけないです。

第4回は8月20日「家具流通機構とデザイン」

パネリストとして学者、小売店、卸問屋の第一人者をお願いして開く予定です。

JIS 検討批評会終る

事務用家具 J I S 案検討批評会開催
去る6月18日(火)午後2時より5時まで、晴海 J F C において、当協会に対する批評会が行なわれました。

当日は事務用家具の J I S 改正案としての試作品の展示もあり、詳細につき小原二郎氏(千葉大)をはじめとして担当諸氏の説明があり、その後活潑な質疑応答、意見交換が行なわれ有意義に終了した。

会 員 近 況

<東京支部>

・穴山邦夫(日建設計)
下記のところに住所移しました。
横浜市保土ヶ谷区中沢町99-27

・伊藤利一(コスガ)
コスガ・インテリア・デザイン教室を4月22日から開講しました。会員の渡辺優氏にも講師をお願いしてご協力を願っております。

・宇塚嘉寿(日本工芸)
昨年9月自動車に追突され、現在むち打ち症にて治療中、快方に向っています。

・宇賀敏夫(愛知)
作品、食堂セット 43年度Gマーク出品しました。

・榎田 均(通産省)

4月2日付けで通産省検査デザイン課より日本貿易振興会に出向になり、西ドイツ、ハンブルグトレードセンター勤務となりました。日本出発は6月上旬の予定

国内連絡場所

横浜市西区西戸部町2-118

岩崎 収 TEL045-231-4164

HITOSHI ENOKIDA
JAPAN TRADE CENTRE・
HAMBURG 2 HAMBURG 36
COLONNADEN 72
TELEPHON: 34 36 51-53

・大阪克彦(大島木材工芸)
北海道銀行函館駅前支店家具完成

・北原 進(フリー)
7月4日~8月10日まで世界一周旅行の予定。
自宅を転居致しました。

港区麻布飯倉片町6

ワロウ・フラット内

TEL583-0246

・小泉克也(カーターアート社)
富山県井波町都市計画の調査、マスタープラン製作中。6月17日ヨーロッパ視察より帰国す。

・糀谷通男(家具の上野)
6月10日栃木県今市農業改良普及所主催「住生活について」講演。

・桜井定雄(日本室内設備)
銀座のBAR「蛸」設計、5月30日完成しました。

・白石勝彦(フリー)
下記に事務所を新設致しました。
白石勝彦住空間設計室
世田谷区上馬3-18-6 フジイン
テリア内 TEL421-8010

・鈴木栄二(陸屋)
横浜ゴムKK 箱根早雲山保養所家具
他設計納入完了

・高橋岩夫(三宅建築造型事務所)
レディース・ルーム・タカシ(美容室)
インテリア デザイン完了、目下工事
監理中。
H氏邸(大森)設計中

・武田美代子(鹿島建設)
三一書房より新書版で「身のまわりの
デザイン、環境の美学」を出しまし
た。ご批評のほどお願い致します。

・土屋晃一(静岡県工業試験所)
4月1日付にてデザイン課長となりま
した。

・永原 浄(フリー)
霞ヶ関ビル1階レストラン・ピーター
ス照明計画、鹿島ビル照明コンサル
タント・新宮殿のデザイン終了、万博関
係照明コンサルト

・中田伊代子
4月より父の経営する印刷会社に、グ
ラフィックデザイナー兼営業として働
いております。

・西海健彦(カイ・インテリアーズ)
3月10日より約2週間サンフランシ
スコ、ロスアンゼルスへ。ハワイ諸島
を廻りポリネシア風族、民芸などを視察

してきました。

・野原寿二
旭川青少年技術者海外派遣研究生とし
て、3年間、西ドイツに学ぶことにな
りました。

・藤原庸弘(三重大学)
ロウコスト住宅設計中

・光藤俊夫(竹中工務店)
第3回SDA賞、C類銀賞「きふね」
アートディレクター高山純氏との協同
による。

・三宅正郎(三宅建築造型事務所)
恩賜財団母子愛育会発行による月刊育
児総合雑誌「愛育」7月号に子供部屋
について執筆。

・森谷延周(豊口デザイン)
第3回エル・サルバドル国際見本市展
示設計を担当中。

・山本ヒカル
4月18日男子を出産致しました。

・山本純子(ツルバデザイン室)
電気器具店設計(不二電気商会)
永田美容院設計

吉永 淳(産業工芸試験所)
アルミニウム誌'67-12号にアルミ
ニウム製学材用家具の試作研究。ピ

ジネスファニチャー誌'68-4月号に
タイプライター机、設計上の問題点を
発表。
事務用家具JIS素案作成に必要なオ
フィス システム チェックのため、
6月12日千代田生命本社、14日に霞ヶ
関ビル鹿島建設へ調査に出張。

IAIのデザイン部門は意匠二部は今
まで家具、機器、雑貨など品質別に研
究室が分れていましたが、6月1日よ
り意匠二部だけがリビング系、食事
系、育児系、表面構成と内容別に研究
室が編成替となりました。

・渡辺輝男(東京家具センター)
大変ご無沙汰しております。5月19日
より肺炎を患い6月9日まで休んでお
りました。まだ完全に回復しませんが
で暫く会へ出席できませんが宜しく。

・今村紀一郎(今村家具店)
洋菓子店の喫茶コーナーにおける家具
設計を担当完了。

<大阪支部>

・樋口 治(京都工芸繊維大学)
このたびKK高島屋設計部長の職を円
満退社、6月より母校京都工芸繊維大
学工芸学部意匠工芸科に職を移しまし
た。

■編集後記

毎号編集後記は発行遅れのいいわけ
欄の感があり、またしても同じことを
書かねばならないのは申しわけの無い
ことです。しかし今回は年度変わりでも
あり、その上前部長榎田氏の海外赴
任、座談会(民間との相互関係)記事
のまとめ、10周年記念事業に関する記
事など時間のかかることが重なり、編
集会議も回を重ね委員一同張切った積
りですが、結果は予定より約一ヶ月の
遅れとなりましたことを、お許し願
いと思います。

本年は10周年記念でもあり、本号以

後記念事業開催までに発行する会報に
ついては、東西協力による編集で10周
年にふさわしいものにするため、各種
の企画を立てております。

何はともあれ、榎田氏の海外赴任は
会報部にとっては大変な痛手です。広
報部(現会報部)発足以来部長として
委員一同を円満にリードされ、良い雰
囲気の中で、新しい企画を次々に進め
られ、新しい会報の形を創られたこと
は会にとっても大きなプラスといえま
す。

これからも海外にあってヨーロッパ

の新しい情報などのご寄稿を願い、ご
協力をいただける予定です。

榎田氏は6月10日午後9時10分羽田
発のルフトハンザ航空で任地西ドイ
ツ、ハンブルグ、ジャパン トレード
センターへご家族と共に元気に出発さ
れましたのでお知らせ致します。

なお本年度会報部の委員として新に
鈴木栄二氏、香西啓三氏を迎えました
こともお知らせ致します。

(東京支部 三宅正郎記)